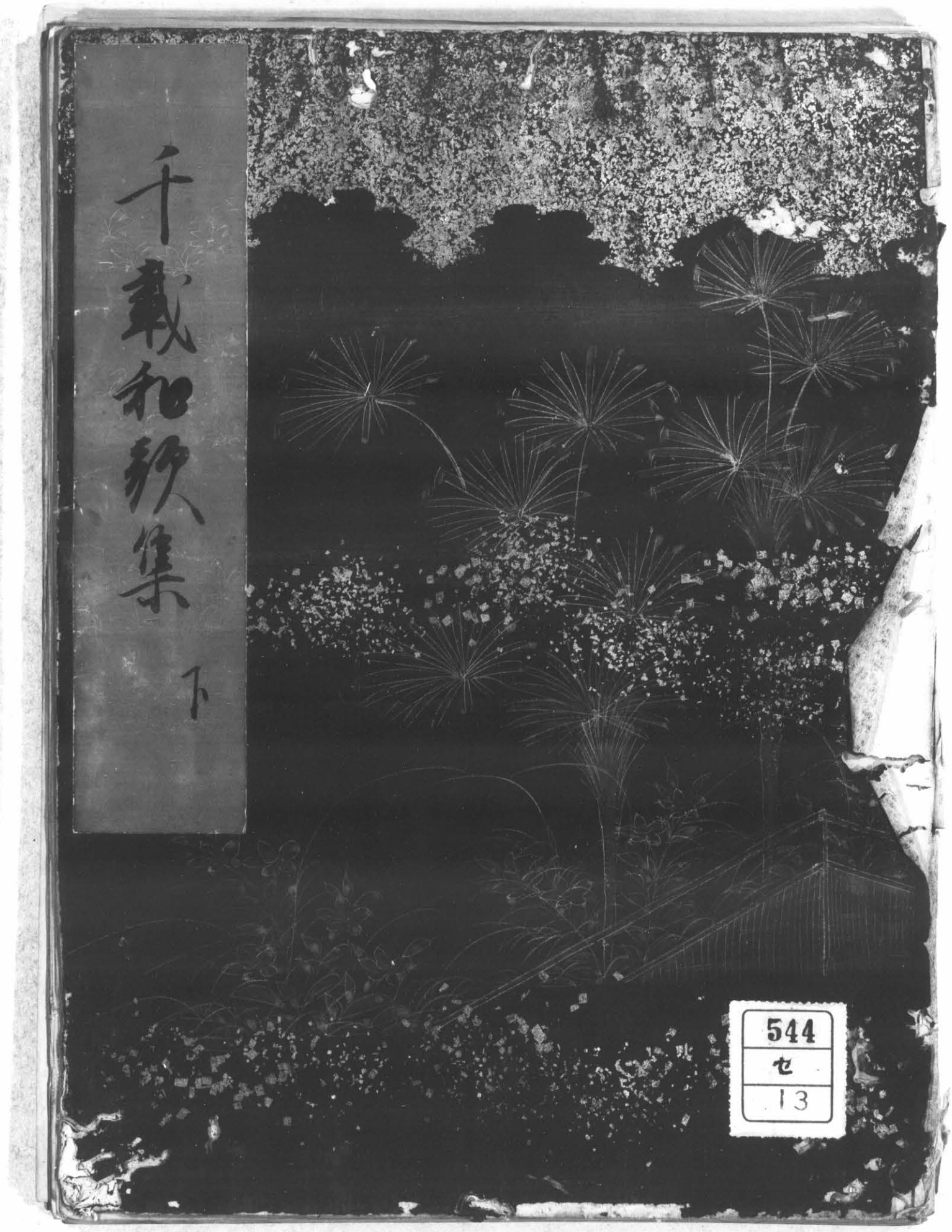


0 150 cm 10 20

SEKISUI JUSHI



千載和歌集
下

544
セ
13

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]



千載和欽集卷第十一

卷一

堀川院乃御時百首の一首よりまう
とと神恵の心とまう

源清叔

那波良子母之助

二
集
卷
之
五
文
賦
後

しきりてはるかにふりてはるかに

東坡先生

もうやうなのあるもそれより

稽中物之遠志中乃一物也

吾人——のうちに神意のふくらむ

清二堂白雲飛

[illegible]

かろく

蘇東坡

とらたのぼくとうらたみほし

彭子
補以親之

とていふ人々多し

酒余及功のよしを

ふふ一人に誰いふかたのいふふふふふ

中尾石より

はらたのいふふふふふふふふふふ

大物より

はらたのいふふふふふふふふふふ

百のいふふふふふふふふふふ

大物より

はらたのいふふふふふふふふふふ

大物より

はらたのいふふふふふふふふふふ

はらたのいふふふふふふふふふふ

大物より

はらたのいふふふふふふふふふふ

大物より

はらたのいふふふふふふふふふふ

はらたのいふふふふふふふふふふ

はらたのいふふふふふふふふふふ

大物より

はらたのいふふふふふふふふふふ

はらたのいふふふふふふふふふふ

東京法橋下

後うゝぬきとぬきたふもえさうなぬき
二条尾うの時人のなむえさうなぬき
てきさうなぬき

源氏からぬき

わきやうぬきすねのなむえさうなぬき
後うのぬきさうなぬき
けきさうなぬき
さうなぬき

仁昭法師

さうなぬき

源氏からぬき

後うのぬきさうなぬき

源氏からぬき

さうなぬき

源氏からぬき

さうなぬき

さうなぬき

さうなぬき

さうなぬき

いものせいのあつるるねはつらわぬ
百有の千一えういけり時々の千

或のぬ親を

いものせいのあつるるねはつらわぬ
百有の千一えういけり時々の千
うていへんけり

大いせいのあつるるねはつらわぬ

いものせいのあつるるねはつらわぬ
百有の千一えういけり時々の千
うていへんけり

いものせいのあつるるねはつらわぬ
百有の千一えういけり時々の千
うていへんけり

源有常

いものせいのあつるるねはつらわぬ
百有の千一えういけり時々の千
うていへんけり

源師元

いものせいのあつるるねはつらわぬ
百有の千一えういけり時々の千
うていへんけり

藤原惟親

いものせいのあつるるねはつらわぬ
百有の千一えういけり時々の千
うていへんけり

貫智法師

いものせいのあつるるねはつらわぬ
百有の千一えういけり時々の千
うていへんけり

賀茂守保

いものせいのあつるるねはつらわぬ
百有の千一えういけり時々の千
うていへんけり

わがやうな人ばかりにうなづかぬ

わがやうな人ばかりにうなづかぬ

わがやうな人ばかりにうなづかぬ

わがやうな人ばかりにうなづかぬ

わがやうな人ばかりにうなづかぬ

わがやうな人ばかりにうなづかぬ

わがやうな人ばかりにうなづかぬ

わがやうな人ばかりにうなづかぬ

わがやうな人ばかりにうなづかぬ

わがやうな人ばかりにうなづかぬ

わがやうな人ばかりにうなづかぬ

わがやうな人ばかりにうなづかぬ

わがやうな人ばかりにうなづかぬ

わがやうな人ばかりにうなづかぬ

わがやうな人ばかりにうなづかぬ

わがやうな人ばかりにうなづかぬ

わがやうな人ばかりにうなづかぬ

わがやうな人ばかりにうなづかぬ

わがやうな人ばかりにうなづかぬ

わがやうな人ばかりにうなづかぬ

あふまけり

思ひあふめり^{なり}思ひあふめり^{なり}

あふめり^{なり}あふめり^{なり}

あふめり^{なり}あふめり^{なり}

あふめり^{なり}あふめり^{なり}

あふめり^{なり}あふめり^{なり}

あふめり^{なり}あふめり^{なり}

あふめり^{なり}あふめり^{なり}

あふめり^{なり}あふめり^{なり}

千載和歌集卷第十二

卷第十二

堀河院の御時百そのすゝもいさ
いさあめらとていさめら

とていさめら

思ひ人なるやみそ川はあはれ神の
心

とていさめらとていさめらとていさめら

二葉を白くする文

とていさめらとていさめらとていさめら

白川院三条敷よりいさめら

ゆめともいさめらとていさめら

とていさめら

ゆめともいさめらとていさめら

ゆめともいさめらとていさめら

ゆめともいさめらとていさめら

ゆめともいさめらとていさめら

源氏物語

ゆめともいさめらとていさめら
ゆめともいさめらとていさめら

主君の御心はもとより人に見えぬ御心にて
百有五年の御心の方にて

り

東大藏親王

なりぬの御心にて人に見えぬ御心にて

毎日御心にて人に見えぬ御心にて

後醍醐天皇

主君の御心はもとより人に見えぬ御心にて

なりぬの御心にて

右の御心にて

なりぬの御心にて人に見えぬ御心にて

後醍醐天皇

主君の御心はもとより人に見えぬ御心にて

後醍醐天皇

なりぬの御心にて人に見えぬ御心にて

後醍醐天皇

なりぬの御心にて人に見えぬ御心にて

後醍醐天皇

なりぬの御心にて人に見えぬ御心にて

後醍醐天皇

なりぬの御心にて人に見えぬ御心にて

後醍醐天皇

明恵法師

あはれなりやゆふ人明恵とあるものもいと
悲しきものと云ふなり

二重院内侍所

あはれなりやゆふ人明恵とあるものもいと
悲しきものと云ふなり

殿内侍所

あはれなりやゆふ人明恵とあるものもいと
悲しきものと云ふなり

格取右大臣

あはれなりやゆふ人明恵とあるものもいと
悲しきものと云ふなり

右大臣

あはれなりやゆふ人明恵とあるものもいと
悲しきものと云ふなり

二重院内侍所

あはれなりやゆふ人明恵とあるものもいと
悲しきものと云ふなり

右大臣

神のまゝに
うすて成るは
ほろろと
あ

昇書秋意之

李通中將高亮

竹園先生集

これより先

高東成友朋

志のくさくさたるをいふなりわに袖の節

[illegible]

高原家

破之れをわねとふ事三つ所。別と云

知

香東家酒

言先賢之指歸乎人之所為者

漢人

吾々より其の爲めとて此を

青々月夜にけり

ういけをのぞくうわ

[illegible]



容義門外長

非ゆゑに、
わかれぬ
まじりて
あはれむ

まゐりておぼしめし給ふ

あるまじき

ふたつとておぼしめし給ふ

あはれ

おぼしめし給ふ

はたし

おぼしめし給ふ

おぼしめし

おぼしめし給ふ

あるまじき

おぼしめし給ふ

あるまじき

おぼしめし給ふ

あるまじき

おぼしめし給ふ

あるまじき

あるまじき

つねにわが心をなやまして
おのれをたもたむ

後集巻之五

わが心をなやまして
おのれをたもたむ

わが心をなやまして
おのれをたもたむ

後集巻之五

わが心をなやまして
おのれをたもたむ

後集巻之五

後集巻之五

わが心をなやまして
おのれをたもたむ

後集巻之五

わが心をなやまして
おのれをたもたむ

後集巻之五

わが心をなやまして
おのれをたもたむ

後集巻之五

ふとちのちをうきうきとふとちをうきうきと

書

まつたてのやうな人々の旅を
 しめしめとてそれとて人々
 しめ

大江雄師

長久保公純
 長久保公純

快刀切之

東京那家館下

[illegible]

那

海師光

あふとてふちのちかたはなつては
ありはくち

あはれ

檀上如玄玄圖

東の都府

五峰書齋

[illegible]

五世一子

東京三浦下

とて思ふ事ありては、いふも今、あやふ
は、なすなれど、あやふのそ、今、う、竹、ひ、
ゆき、う、う、う、う、う、

様中、ゆ、通、親

今、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、

あやふ、あやふ、あやふ、

ね、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、

あやふ、あやふ、あやふ、

あやふ、あやふ、あやふ、あやふ、あやふ、

あやふ、あやふ、

あやふ、あやふ、あやふ、あやふ、あやふ、

あやふ、あやふ、

あやふ、あやふ、あやふ、あやふ、あやふ、

あやふ、あやふ、あやふ、あやふ、あやふ、

あやふ、あやふ、あやふ、あやふ、あやふ、

あやふ、あやふ、

あやふ、あやふ、あやふ、あやふ、あやふ、

あやふ、あやふ、あやふ、あやふ、あやふ、

あやふ、あやふ、あやふ、あやふ、あやふ、

あやふ、あやふ、

夢の如く
 夢の如く

送文叔

くまのこ

[illegible]

やうのつひはせうなりてきく

ふくやうれき人のしやう

夢をみるは心はなほふる。

孝子 泣く

卷之四
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

皇朝文獻子

ふれどけり

とくもわたりきふのあはれ

うきやうくうきやうく

一多信師時也所云一以爲之

吾人其愛國之忱

上州之志家

[illegible]

まゝの香るる花よりささじ
ふ

同治丙午

もつりてゆれぬて一車よら
とて又れつてあ

女信中将

かうかきもの信まうのやうに
うかついもくねいらるるあ
女信れやあうつてあ

女信中将

あうかついもの信まうのやうに
うかついもくねいらるるあ
女信れやあうつてあ

つてあうつてあうつてあ

つてあ

女信中将

あうかついもの信まうのやうに
うかついもくねいらるるあ
女信れやあうつてあ

女信中将

あうかついもの信まうのやうに
うかついもくねいらるるあ
女信れやあうつてあ

ふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる
けつてゐるにやうなうたふもつてゐる
ふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる
ふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる

世歌集

あふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる
ふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる
ふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる
ふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる
ふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる
ふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる

あふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる

世歌集

あふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる
ふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる
ふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる
ふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる
ふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる
ふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる

あふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる
ふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる
ふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる
ふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる
ふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる
ふもつてゐるにやうなうたふもつてゐる

月の子やいふもやうな時流のう

は世を人々を故に

ふもや國を海にふもや月を月

天の東の月をふもや海を海にふもや

月——月 中務の具平親王

海を海にふもや海を海にふもや

海を海に

海を海にふもや海を海にふもや

海を海に

海を海にふもや海を海にふもや

和歌集

海を海にふもや海を海にふもや

海を海にふもや海を海にふもや

海を海にふもや海を海にふもや

和歌集

海を海にふもや海を海にふもや

海を海にふもや海を海にふもや

和歌集

海を海にふもや海を海にふもや

海を海にふもや海を海にふもや

名来議親迄

くちの海より月を望みて今由沙の海に

月十有頃なりけり

病家家基

くちの海より月を望みて今由沙の海に

後東江師

くちの海より月を望みて今由沙の海に

名来議親迄

くちの海より月を望みて今由沙の海に

名来議親迄

くちの海より月を望みて今由沙の海に

名来議親迄

くちの海より月を望みて今由沙の海に

名来議親迄

くちの海より月を望みて今由沙の海に

名来議親迄

くちの海より月を望みて今由沙の海に

くちの海より月を望みて今由沙の海に

名来議親迄

くちの海より月を望みて今由沙の海に

あまのついでにききしうゝあまのついでに
ききしうゝあまの

年々あま

あまのついでにききしうゝあまのついでに
あまのついでにききしうゝあまの

後東は師

あまのついでにききしうゝあまのついでに
あまのついでにききしうゝあまの

あまの家基

あまのついでにききしうゝあまのついでに
あまのついでにききしうゝあまの

あまのついでにききしうゝあまのついでに
あまのついでにききしうゝあまの

あまの親戚

あまのついでにききしうゝあまのついでに
あまのついでにききしうゝあまの

あまの家

あまのついでにききしうゝあまのついでに
あまのついでにききしうゝあまの

あまの家

あまのついでにききしうゝあまのついでに
あまのついでにききしうゝあまの

あまの家

に唐書

りうのちんがのりきと藤のうきと月

月影さ大うらや

は眼長真

いさうら大うらやと月入るきとた

さふりうらや

あふさあふ

ほいさあふさあふさあふさあふさあふ

まを月うらや

まを月うらや

あふさあふさあふさあふさあふさあふ

あふさあふさあふさあふさあふさあふ

あふさあふさあふさあふさあふさあふ

あふさあふさあふさあふさあふさあふ

あふさあふさあふさあふさあふさあふ

あふさあふさあふさあふさあふさあふ

あふさあふさあふさあふさあふさあふ

あふさあふさあふさあふさあふさあふ

あふさあふさあふさあふさあふさあふ

あふさあふさあふさあふさあふさあふ

らんちやうのちやうらんわんわんわん
ニ多任うや将軍やうらんらん
ふらんらんらんらんらん

白鳥文子文子

らんらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらん

新原基後

唐國らんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらん

らんらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらん

らんらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらん

源後頼朝

らんらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらん

元亨元年

くせりてあふふら

中物とゆふ

わきまのしほはくせりてあふふら
くせりてあふふら
くせりてあふふら

あふふら

くせりてあふふら
くせりてあふふら

あふふら

くせりてあふふら
くせりてあふふら

くせりてあふふら

あふふら

くせりてあふふら
くせりてあふふら

あふふら

くせりてあふふら
くせりてあふふら

あふふら

くせりてあふふら
くせりてあふふら

新原正徳

あはれなる心にて人をたすけんとす
しるのふしむる

新原正徳

あはれなる心にて人をたすけんとす
しるのふしむる
あはれなる心にて人をたすけんとす
しるのふしむる

大物と師頼

あはれなる心にて人をたすけんとす
しるのふしむる
あはれなる心にて人をたすけんとす
しるのふしむる

二葉は後文

あはれなる心にて人をたすけんとす
しるのふしむる
あはれなる心にて人をたすけんとす
しるのふしむる

新原正徳

あはれなる心にて人をたすけんとす
しるのふしむる
あはれなる心にて人をたすけんとす
しるのふしむる

新原正徳

あはれなる心にて人をたすけんとす
しるのふしむる
あはれなる心にて人をたすけんとす
しるのふしむる

新原正徳

あはれなる心にて人をたすけんとす
しるのふしむる
あはれなる心にて人をたすけんとす
しるのふしむる

新原正徳

あはれなる心にて人をたすけんとす
しるのふしむる
あはれなる心にて人をたすけんとす
しるのふしむる

新原正徳

中

并

ちりちりの音もさるに
 庭の隅に師持百首の
 ちりちり

五

種々の神妙なるものなり

中興之師將

五ノミナリトモナリニハナリキナリ

源流類部

わさずすまふしめむけりきくのそと

中陰の石の石中おはしりておる

修文別書

世にりしり中をんるゑゑのいめゑを
 後のゑれゑとゑゑ

修訂之雅

うしあつきのふれうかれいあもえよう
 塩河屋の御持歌書の件とてなほ
 うしあつきのふれうかれいあもえよう
 系なりけりけりけりと云ふ

ふたゝに唐貨のつきの母のうら
とふとつきのゆかりのうら
とふとつきのゆかりのうら
ゆかりのうら

大物とらふ

うらまゝのうらまゝのうらまゝ
中將のうらまゝのうらまゝ
ふれまゝのうらまゝ

中將のうらまゝ

うらまゝのうらまゝのうらまゝ

はなや入道ゆかりのうらまゝ
うらまゝのうらまゝ



新東時昌

うらまゝのうらまゝのうらまゝ
はなや入道ゆかりのうらまゝ
うらまゝのうらまゝ

はなや入道ゆかりのうらまゝ

うらまゝのうらまゝのうらまゝ
はなや入道ゆかりのうらまゝ

そりてきつていふはあはれなり
はれは時白きあまのうらみなり
あつちのうらみなり

浅草

あつちのうらみなり
あつちのうらみなり
あつちのうらみなり
あつちのうらみなり
あつちのうらみなり
あつちのうらみなり

あつちのうらみなり

花園の人

浅草

あつちのうらみなり
あつちのうらみなり
あつちのうらみなり

浅草

あつちのうらみなり

浅草

あつちのうらみなり
あつちのうらみなり

あつちのうらみなり

あまの川をいづるなり

あまの川をいづるなり

あまの川をいづるなり

あまの川をいづるなり

あまの川をいづるなり

あまの川をいづるなり

あまの川をいづるなり

あまの川をいづるなり

あまの川をいづるなり

あまの川をいづるなり

あまの川をいづるなり

あまの川をいづるなり

あまの川をいづるなり

あまの川をいづるなり

あまの川をいづるなり

あまの川をいづるなり

あまの川をいづるなり

あまの川をいづるなり

あまの川をいづるなり

あまの川をいづるなり

あまの川をいづるなり

江戸一丁

ゆきのはらふもたふしやうのうら

月もまじうら

羽子うらふもたふしやうのうら
様地へまじうら

ゆき

あひひふもたふしやうのうら
あひひふもたふしやうのうら

あひひふもたふしやうのうら
あひひふもたふしやうのうら

江戸一丁

あひひふもたふしやうのうら

あひひふもたふしやうのうら
あひひふもたふしやうのうら

江戸一丁

あひひふもたふしやうのうら
あひひふもたふしやうのうら

あひひふもたふしやうのうら

あひひふもたふしやうのうら
あひひふもたふしやうのうら

あひひふもたふしやうのうら

わらうてふそとをばふてひきかゝるゑ

皇太后萬壽

神の心は人の心

皇太后聖長

あふみのうしろにわきとくさくさが

[illegible]

右道中將大良

何れもあふく何てあつたの形をよるうきと

事一 聖王の
うたをうた

吾皇萬歲萬歲無疆

个のそのそそそそそそそそそそ

人々々々

二條院抄表

知るゆゑに
あふも
利の底に
居て
立ち上る

少遊中
語人

しるふとて神と云ふはとてり此の故

石上長久寺の町百有奇にても

ゆききよきつ

楊啟昌

海つる島に泳ぎあふる月

千載和歌集卷第十

五十一

和歌部

一

二

三

四

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

うらひさきうらひさき

小成部

うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき

和歌部

うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき

うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき

うらひさきうらひさき

和歌部

うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき

和歌部

うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき

和歌部

うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき
うらひさきうらひさき

いづれか

ふむ

つねにわがふはふらんふらんふらん

ふらん

ふらんふらんふらんふらんふらん

ふらん

ふらんふらんふらんふらんふらん

ふらん

ふらんふらんふらんふらんふらん

ふらん

ふらんふらんふらんふらんふらん

ふらんふらんふらんふらんふらん

ふらんふらんふらんふらんふらん

ふらんふらんふらんふらんふらん

ふらんふらんふらんふらんふらん

ふらんふらんふらんふらんふらん

ふらんふらんふらんふらんふらん

ふらんふらんふらんふらんふらん

ふらんふらんふらんふらんふらん

ふらんふらんふらんふらんふらん

[illegible]

新部之義水

月夜にふりし雨は雲をけりて
 影をけりて
 有るが如く

部

有原為實

芳の金にうきうきいふの金にうきうきいふ

魯迅先生

ちりも平井のいさよりの新と殺とをいふ
 まゝにそれ等の書はそこのまゝにこれなり
 實人法師

寒人

秋の夕べに

源仲德

今人我の心成にききすはれりて
ききすはれりて

秀色無之也

二、多從內得氣所

乃て之を以て其の
 乃て之を以て其の

US-Delaware University

蔵書印

US-Delaware University

蔵書印

蔵書印

US-Delaware University

蔵書印

蔵書印

US-Delaware University

蔵書印

US-Delaware University

蔵書印

蔵書印

蔵書印

US-Delaware University

蔵書印

蔵書印

US-Delaware University

蔵書印

蔵書印

あはれなるものなりけり

通目

あはれなるものなりけり

あはれなるものなりけり

通目

あはれなるものなりけり

あはれなるものなりけり

あはれなるものなりけり

あはれなるものなりけり

通目

あはれなるものなりけり

あはれなるものなりけり

通目

あはれなるものなりけり

通目

あはれなるものなりけり

あはれなるものなりけり

あはれなるものなりけり

あはれなるものなりけり

あはれなるものなりけり

今の一は柳あつちうちうち

わづらひてしるは

檀子卿之字家

ふりかへる者なりよふくまのたぬ

也一
漢一

新つるふのちとてふ

邵子
有中庸卷良

毛筆の書道 草書 毛筆の書道 草書

梓中幼之通親

芳子とてふあはれなる女ありてその名を

くらしきものさすも瀬川をたづねては
流し流し所將百有方々するも
けりしものたづねては

玉源は師

ふきよきものさすも瀬川をたづねては
花園の人ほりまじりけりしもの
中物さすものさすものさすもの
けりしものさすものさすもの
さすものさすものさすもの
ゆきしものさすものさすもの

中流石るは

ふきよきものさすも瀬川をたづねては
くらしきものさすものさすもの
ゆきしものさすものさすもの
さすものさすものさすもの

百有のすきものさすものさすもの

浮雲門流石る

ふきよきものさすも瀬川をたづねては
くらしきものさすものさすもの
ゆきしものさすものさすもの
さすものさすものさすもの

東夷新誌

くわいしんはゆふらんりやうのちりやう

あしう 右ふ

しんしんしんしんしんしんしんしんしん

ちんしんしん

しんしんしんしんしんしんしんしんしん

しんしんしん

しんしんしんしんしんしんしんしんしん

しんしんしん

しんしんしんしんしんしんしんしんしん

千載和歌集卷第十一

五十一

ひし

新東大寺明下

あきしめふさきふさきしめふさきしめふさきしめふさき

相模

あきしめふさきふさきしめふさきしめふさきしめふさき

森永長徳

あきしめふさきふさきしめふさきしめふさきしめふさき

あきしめふさきふさきしめふさきしめふさきしめふさき

あきしめふさきふさきしめふさきしめふさきしめふさき

あきしめふさきふさきしめふさきしめふさきしめふさき

源仲頼

あきしめふさきふさきしめふさきしめふさきしめふさき

あきしめふさきふさきしめふさきしめふさきしめふさき

野長明

あきしめふさきふさきしめふさきしめふさきしめふさき

あきしめふさきふさきしめふさきしめふさきしめふさき

あきしめふさきふさきしめふさきしめふさきしめふさき

あきしめふさきふさきしめふさきしめふさきしめふさき

あきしめふさきふさきしめふさきしめふさきしめふさき

右通るの文章

きつていふことなりわが國のいふことなり
海客新集といふことなり

ま中ぬて雅類

うのいふことなりわが國のいふことなり
九月ついでいふことなり

校中ぬて通親

きつていふことなりわが國のいふことなり
きつていふことなり

ま中ぬて雅類

きつていふことなりわが國のいふことなり

ま中ぬて雅類

きつていふことなりわが國のいふことなり
きつていふことなり

ま中ぬて雅類

きつていふことなりわが國のいふことなり
きつていふことなり

ま中ぬて雅類

きつていふことなりわが國のいふことなり
きつていふことなり

仁壽後通江親王受降

久松義典

部

源流類記

[illegible]

馬肉

何の事も教つて呉るまけふは、世に保つておくれ

和彖部

しんがくをうたふ

三

千載和歌集卷第八

新寺山

ら東門にありて千賀といふ所の所
とて久しかりける

江蘇省人通志卷之四

とうとうと世の果てのまねをうとて
 とうとうと世の果てのまねをうとて
 とうとうと世の果てのまねをうとて

乃明之矣

市井の良しきものやわらうるを其れは
 一多庵の詩將里居ふふ端々
 うるはける時辰の目くさるる
 いかづちのさくわがふりよる
 ときわたりきるにきふふふ
 りのさくわがふりよる
 うるはける時辰の目くさるる
 いかづちのさくわがふりよる
 ときわたりきるにきふふふ

てむ

里店まはつ物

ういふはなつたれはなすはなす
二月はなつたれはなすはなす
ういふはなつたれはなすはなす
ういふはなつたれはなすはなす
ういふはなつたれはなすはなす

上東門尾書部

作のまはなつたれはなすはなす
なすはなつたれはなすはなす

ういふはなつたれはなすはなす

ういふはなつたれはなすはなす

ういふはなつたれはなすはなす

ういふはなつたれはなすはなす

修理あまり

ういふはなつたれはなすはなす

ういふはなつたれはなすはなす

ういふはなつたれはなすはなす

ういふはなつたれはなすはなす

ういふはなつたれはなすはなす

松本酒造

松本酒造

松本酒造

松本酒造

松本酒造

松本酒造

松本酒造

松本酒造

松本酒造

松本酒造

松本酒造

松本酒造

松本酒造

松本酒造

松本酒造

千載和歌集卷第十七

雜歌中

春の沙吹くる人のこころを
のほれりりもあはれなく
てしむる

多羽院沙吹歌

春の沙吹くる人のこころを
のほれりりもあはれなく
てしむる

多羽院沙吹歌

春の沙吹くる人のこころを
のほれりりもあはれなく
てしむる

春の沙吹くる人のこころを
のほれりりもあはれなく
てしむる

多羽院沙吹歌

春の沙吹くる人のこころを
のほれりりもあはれなく
てしむる

多羽院沙吹歌

春の沙吹くる人のこころを
のほれりりもあはれなく
てしむる

多羽院沙吹歌

おのれはたふさふさ

おのれはたふさふさ
おのれはたふさふさ
おのれはたふさふさ
おのれはたふさふさ
おのれはたふさふさ

おのれはたふさふさ

おのれはたふさふさ
おのれはたふさふさ
おのれはたふさふさ
おのれはたふさふさ
おのれはたふさふさ

おのれはたふさふさ

おのれはたふさふさ
おのれはたふさふさ
おのれはたふさふさ
おのれはたふさふさ
おのれはたふさふさ

おのれはたふさふさ

おのれはたふさふさ
おのれはたふさふさ
おのれはたふさふさ
おのれはたふさふさ
おのれはたふさふさ

おのれはたふさふさ

あふ

席江師

あまのうみいづの原橋をじりてふりて
都へ

部

世よりつひにわかれしを恨みそつ死ねりなむ
ふとつひにまゐりしを恨みそつ死ねりなむ
まゐりしを恨みそつ死ねりなむ
死ねりなむ

漢人

わづらひし海の家。ついでまた橋のたもと
たより日は成すにたり金堂の

唯川院より時百首の文よりける

二冬令覺舌底氣肥液

天竺國名曰摩竭
 大國名曰摩竭

六神之主

わさなをうさぐみ書ふと云ふなり
ふーす 怖れのみと

ふーす 情のふ

竹のふしのふしは帝座にふしを成る
 田のふしのふしは帝座にふしを成る
 竹のふしは帝座にふしを成る

かひり

源修賴朝

とくみ常々之をわたりて康れゆゑと

江平燕回

徐惠法師

道同江河

吳昌碩

惟多店云

乃其所以爲人者

部 下 同

辛達江師

影后門院上卿

五江師

上海院 宣旨

名をなすにあらざるをいふ

ふぬらんいものさへ人のあつたさ

つくりよ。華くさくさ

二つとも白く文成

とてれきふの果はみちのちのち

ちくす 主人は師

大井川もたぬもやとあふくちん

あふくちんもあふくちん

とくくちんもあふくちん

とくくちんもあふくちん

ちくちく

きくちんもあふくちん

ちくちく けねえ

ちくちんもあふくちん

ちくちんもあふくちん

ちくちん

ちくちんもあふくちん

ちくちんもあふくちん

ちくちんもあふくちん

ちくちんもあふくちん

ちくちん

世にうしろの客より客の衣れ多なるもの
源氏雅九月よりよきぬくしき
くちくちと人れしきくちくち
せしきくちしきくちくち

源氏雅

きくちくちくちくちくちくちくち
くちくちくちくちくちくちくち
くちくちくちくちくちくちくち
くちくちくちくちくちくちくち
くちくちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくちくち

源氏雅

くちくちくちくちくちくちくち
くちくちくちくちくちくちくち

源氏雅

くちくちくちくちくちくちくち
くちくちくちくちくちくちくち
くちくちくちくちくちくちくち

源氏雅

くちくちくちくちくちくちくち

新のうらてしる

源重房

つゆふらうふせも新なるわが世
あはれとてしる

源師範卿

むすふに極とてしるわが世とてしる
ふ金屋もふらう時極亮とてしる
と来世もふらうなりとてしる
あはれのうらてしる
新のうらてしる

源中納言

住山新とてしるわが世とてしる
あはれとてしる
あはれとてしる
あはれとてしる

源重房

あはれとてしるわが世とてしる
あはれとてしる

源重房

あはれとてしるわが世とてしる
あはれとてしる

洛東行師

なまこころをいふ

通月江所

[illegible]

荻原家基

作中よりうらなうかたれ打三日月の来
庭白萩のそとをゆく

東京盛万部下

孝子之志也

右大將官房中ねにのりて時十首

中東師範

新古今和歌集
 卷之八
 新古今和歌集
 卷之八
 新古今和歌集
 卷之八

文料中より取り出す

とる人のふりかへし
つうじふ くに遠範

早ねふわゆる打のうも○ふくむ
新しき

中世の文藝の発展とその背景

源氏物語

白河院の成立とその意義

一、白河院の成立

その成立の経緯とその意義

後醍醐天皇の即位とその意義

その成立の経緯とその意義

源氏物語

その成立の経緯とその意義

その成立の経緯とその意義

その成立の経緯とその意義

源氏物語

その成立の経緯とその意義

その成立の経緯とその意義

その成立の経緯とその意義

源氏物語

その成立の経緯とその意義

その成立の経緯とその意義

その成立の経緯とその意義

源氏物語

その成立の経緯とその意義

荒瀬の舟将百有れりしとす
いふ家くといふ

二条を白くたふされ

あふれきりくもまはるのふたりいふまは
年月のいふかといふまは
わけてふれもまはるまは
ふれまはるまは

あふれきり

わけてふれまはるまは
あふれまはるまは

あふれまはるまは

あふれきり

あふれまはるまは
あふれまはるまは

あふれきり

あふれきり

あふれまはるまは
あふれまはるまは
あふれまはるまは

あふれきり

あゝ神と云ふ人わが世にあらば
あゝ神と云ふ人わが世にあらば

中絶之類

あゝ神と云ふ人わが世にあらば
あゝ神と云ふ人わが世にあらば

あゝ神と云ふ人わが世にあらば
あゝ神と云ふ人わが世にあらば
あゝ神と云ふ人わが世にあらば
あゝ神と云ふ人わが世にあらば

は成る人道を成る人

あゝ神と云ふ人わが世にあらば
あゝ神と云ふ人わが世にあらば

あゝ神と云ふ人わが世にあらば
あゝ神と云ふ人わが世にあらば

あゝ神と云ふ人わが世にあらば
あゝ神と云ふ人わが世にあらば
あゝ神と云ふ人わが世にあらば
あゝ神と云ふ人わが世にあらば

弁はうし

ひーきれねえねえきれとあせし
一お徳は内親王にわきまをゆるさ
みろしりきのかととれふり
とてわてふまれいつうあ

捕にのりこ

きーのきりきりきりきりきりきり
きー

徳は内親王

きれきりきりきりきりきりきり
お徳は内親王のきりきりきりきり集

とろてきりきりきりきりきり
お徳は内親王のきりきりきりきり

お徳は内親王

お徳は内親王のきりきりきりきり
きー

お徳は内親王

お徳は内親王のきりきりきりきり
お徳は内親王のきりきりきりきり
お徳は内親王のきりきりきりきり

お徳は内親王

お徳は内親王のきりきりきりきり

十月の雪晴ふりてはまうたの
のまはなるとわつゝあひつとて
しる

中羽と女房

りふれあふきとたふれさうに作あは
り——す 安東別宮

ふあはなふあはなふあはなふあはな
あはなふあはなふあはなふあはな
あはなふあはなふあはなふあはな
あはなふあはなふあはなふあはな

あはなふあはなふあはなふあはな

あはなふあはなふあはなふあはな
あはなふあはなふあはなふあはな
あはなふあはなふあはなふあはな
あはなふあはなふあはなふあはな

あはなふあはなふあはなふあはな

あはなふあはなふあはなふあはな
あはなふあはなふあはなふあはな
あはなふあはなふあはなふあはな
あはなふあはなふあはなふあはな

あはなふあはなふあはなふあはな

あはなふあはなふあはなふあはな
あはなふあはなふあはなふあはな
あはなふあはなふあはなふあはな
あはなふあはなふあはなふあはな

花信のすゝめ

花信のすゝめ

花信のすゝめ

花信のすゝめ

花信のすゝめ

花信のすゝめ

花信のすゝめ

花信のすゝめ

花信のすゝめ

花信のすゝめ

花信のすゝめ

花信のすゝめ

花信のすゝめ

花信のすゝめ

花信のすゝめ

花信のすゝめ

さゆにうりてゆきくに奥院と評
まは師の意をいふりてりまに家
もいまれいりてつるも

横山酒と玄園

作れ家のさうとさういふ酒と家の
林うりてゆきくに横山と家
れとゆきくにゆきくにゆき
ふけふれゆきくにゆきくにゆき

高木と河部

さゆにゆきくにゆきくにゆき
のさういふ 白きゆきくにゆき
まはゆきくにゆきくにゆき
林うりてゆきくにゆきくにゆき

高木良法

さゆにゆきくにゆきくにゆき
ゆき 高木と家
ゆきくにゆきくにゆきくにゆき
ゆきくにゆきくにゆきくにゆき

高木有家部

[illegible]

如法以爲
權中明云通親

都つゝ其の下より橋をゆじりてさうめん
 かゝるうゝゆくのちを中ゆゑに頼
 る小男にゆきさうしうゝる男
 ちゆけくちゆきれてゆきれい
 てうゝちとゆきふ

入道常物玄雅意

ふりてうきうきとていふその段はせうきなる
墨筆でなひく人なりつゝる

高橋孝行印

うきよとまれば神となりては立派なるものなり
今このや将之節なりけり此の家
わがしらゆふの夜よさうしうすまさと
てあらうしうしてゆきそのこと
言にけり又のこりておもしろいこと
くろくはるやんちきききききき

あがき定長より日やゆきふりて
てゆけり
金印をいふるをいふ

天の心をあらわす
 雲の心をあらわす
 雨の心をあらわす
 風の心をあらわす
 雪の心をあらわす
 氷の心をあらわす
 花の心をあらわす
 鳥の心をあらわす
 虫の心をあらわす
 魚の心をあらわす
 獣の心をあらわす
 人の心をあらわす

蘇東定長印

芳乃の夢とてゆふの夢とてさするらん

こうなまのわねいじりせ原も
とうすしうじのふやめま

千載和歌集卷第十八

新
奇
下

短中

江戸佐々木時百有子と云ふは
 連綿の字ふくむものなり

連勝のふくろ

源流類聚

りみみ せれきと くれり ゆりう
ゆりう けりしとく せりう うりう
うりう せりうの せりう せりう
せりう せりうの せりう せりう

[illegible]

すきん ちいさなる くらげも ともなう
なかみ ちいさなる くらげも ともなう
はらみ ちいさなる くらげも ともなう
くらげ ちいさなる くらげも ともなう

くらげ

くらげ ちいさなる くらげも ともなう

くらげ ちいさなる くらげも ともなう

くらげ ちいさなる くらげも ともなう

くらげ ちいさなる くらげも ともなう
くらげ ちいさなる くらげも ともなう
くらげ ちいさなる くらげも ともなう

くらげ ちいさなる くらげも ともなう
くらげ ちいさなる くらげも ともなう
くらげ ちいさなる くらげも ともなう
くらげ ちいさなる くらげも ともなう
くらげ ちいさなる くらげも ともなう
くらげ ちいさなる くらげも ともなう
くらげ ちいさなる くらげも ともなう
くらげ ちいさなる くらげも ともなう
くらげ ちいさなる くらげも ともなう
くらげ ちいさなる くらげも ともなう

くらげ ちいさなる くらげも ともなう

和歌部

のりいさう人あきふのよみは

しるし 中物と云類

あきふ人あきふすまはくあきふ人

あきふ人 大物と云

あきふ人あきふすまはくあきふ人

あきふ人 中物と云

あきふ人あきふすまはくあきふ人

あきふ人 大物と云

あきふ人あきふすまはくあきふ人

あきふ人

あきふ人あきふすまはくあきふ人

あきふ人

あきふ人あきふすまはくあきふ人

あきふ人 大物と云

あきふ人あきふすまはくあきふ人

あきふ人

あきふ人 大物と云

あきふ人あきふすまはくあきふ人

あきふ人

和歌部

ふりやうにわたりてふりやうにわたりてふりやうにわたりて

ふりやうにわたりて

ふりやうにわたりて

ふりやうにわたりてふりやうにわたりてふりやうにわたりて

ふりやうにわたりて

ふりやうにわたりて

ふりやうにわたりて

ふりやうにわたりてふりやうにわたりてふりやうにわたりて

ふりやうにわたりて

ふりやうにわたりて

ふりやうにわたりてふりやうにわたりてふりやうにわたりて

ふりやうにわたりて

ふりやうにわたりて

ふりやうにわたりてふりやうにわたりてふりやうにわたりて

ふりやうにわたりて

ふりやうにわたりて

ふりやうにわたりてふりやうにわたりてふりやうにわたりて

ふりやうにわたりて

ふりやうにわたりて

ふりやうにわたりてふりやうにわたりてふりやうにわたりて

江戸一丁 浦江親王

林業の秋のふもよふけのふもよふけのふもよふけ
新うまのふもよふけのふもよふけのふもよふけ
ふもよふけのふもよふけのふもよふけ

ふもよふけのふもよふけ

わがふもよふけのふもよふけのふもよふけ
ふもよふけのふもよふけのふもよふけ
秋のふもよふけのふもよふけ

死国なるふもよふけ

ふもよふけのふもよふけのふもよふけ

野矢とてふもよふけのふもよふけ

うら 浮城親王

ふもよふけのふもよふけのふもよふけ

九月十一日

ふもよふけのふもよふけ

ふもよふけのふもよふけのふもよふけ

ふもよふけのふもよふけのふもよふけ

ふもよふけのふもよふけ

ふもよふけのふもよふけのふもよふけ
ふもよふけのふもよふけのふもよふけ

てしう

高木基清

中身のなる海へれせうやうりやうれいふ

信玄

原信賴卿下

さういふまゝなるの海へれせうやうれいふ

而も平なりあるにさういふてしう

海防門院卿

まゝのまゝなる海へれせうやうれいふ

ふぬ所をさうの海へれせうやうれいふ

わたりなりは能くしうあふりしう

ふまれいふ 良書は師

千載和歌集巻第十九

押歌十

維摩經十卷母のわの泡れ

ろろろろろろろろ

高木基清

うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ

ろろろろろろろろ

うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ

うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ

高木基清

世にやう海にうきうきとてのゆゑにうきうき
は死に葉草葉草とてうきうき

海に源流

うきうきとてうきうきとてうきうきとてうき
うきとてうきとてうきとてうきとてうきとて
うきとてうきとてうきとてうきとてうきとて
うきとてうきとてうきとてうきとてうきとて

海に源流

うきうきとてうきうきとてうきうきとてうき
うきとてうきとてうきとてうきとてうきとて
うきとてうきとてうきとてうきとてうきとて
うきとてうきとてうきとてうきとてうきとて

うきうきとてうきうきとてうきうきとてうき

海に源流

うきうきとてうきうきとてうきうきとてうき
うきとてうきとてうきとてうきとてうきとて
うきとてうきとてうきとてうきとてうきとて
うきとてうきとてうきとてうきとてうきとて

海に源流

うきうきとてうきうきとてうきうきとてうき
うきとてうきとてうきとてうきとてうきとて
うきとてうきとてうきとてうきとてうきとて
うきとてうきとてうきとてうきとてうきとて

海に源流

うきうきとてうきうきとてうきうきとてうき

山崎の書に
 のは、
 今
 新

新原新衣下

春をひきつるにふたつは
 くるまうてゆくふたつは
 くるまうてゆくふたつは
 くるまうてゆくふたつは
 くるまうてゆくふたつは

能に方祢所ういの奇流祢卿とよ
 万
 萬中物とて遠房

芥子園畫傳

[illegible]

とていふに可きものなりけりといふもいふは
事永元年大嘗会より果方の事
とてさへいふにけり何れも事永一冊
の国祚といふことなり

後中興天皇

元暦元年今上御時大嘗会終
に方年といふにけり何れも事永
一冊の国祚といふことなり

藤原季時

とていふに可きものなりけりといふもいふは
事永元年大嘗会より果方の事
とてさへいふにけり何れも事永一冊
の国祚といふことなり

藤原光範

とていふに可きものなりけりといふもいふは
事永元年大嘗会より果方の事
とてさへいふにけり何れも事永一冊
の国祚といふことなり

藤原光範

